

「狂っていると思われるほどの信仰」

～We are crazy people!～

「ここで突然、フェストが大声をあげました。『パウロ、気がおかしくなったか！あまりに学問に身を入れすぎて、おかしくなったのだ。』…アグリッパは、パウロのこぼした言葉をさげすみました。『おまえは少しばかり話しただけで、私をクリスチャンにしようというのか。』『お話ししたことが短かろうと長かろうと、そんなことはかまいません。私がひたすら神にお願いするのは、あなた様をはじめ、ここにおられる皆さん全部が、私と同じようになってくださることです。…。』」
使徒行伝26章24、28・29節 [リビングバイブル]

パウロは「お前は狂っている」と言われました。それに対して、パウロは自分は至って冷静であることを言い表しましたが、その時代、クリスチャンになるということが「気が狂っている」と思われることであるなら、パウロはその事を否定せずに、「自分はクリスチャンであり、あなたがたも皆同様にクリスチャンになって欲しいのだ！」と断言しました。

しかし、冷静になって考えてみるなら、人間が「気が狂っている」と人に思われるほどに熱中できるもの、人生をかけることができるほどの出会いをしているか？ということ問われるなら、そんな生き方をしてみたいと願うことは至って冷静な人間が持つ願望ではないでしょうか。

私は中高生時代、自分に自信がなく、人生の意味も分からない若者でしたが、ラジカセの向こう側で、涙と鼻水で感動して語っている牧師のメッセージに感動して、「自分もこの人が語っているような感動を持って生きる人間になりたい」と感じて、1989年12月10日の日曜日にイエス・キリストを自分の救い主であると告白して、洗礼を受けました。それ以来、単なる憧れから、自分自身の生き方、考え方の根本的な土台として、イエス・キリストを信じ、このお方と共に生きる人生を歩むようになりました。私自身は何度も過ちを犯し、その度にそのお方の前に出て、悔い改め、赦しを頂き、そのお方の心と自分自身の心をつなげて生きていくことができました。このお方が私の羊飼いであり、導き手であり、すべての道を整え、すべての環境を守り、責任を持って私自身を導き続けてくださいました。このお方が、私のすべてであり、私の心をいつも満たして下さっています。少しも欠乏を感じたことはありませんし、不安を覚えることもありません。このお方がすべてで、その他のものは付録に過ぎません。

その上で、私がなすべき事は、与えられた恵みをひとり占めにするのではなく、ひとりでも多くの方々にお伝えしていくことです。それが、パウロも行ったことです。自分だけが、その祝福をいただいて、自己満足しているのではなく、人生をかけて、与えられた主イエス・キリストによる復活と永遠の命の恵みを伝えていかなければなりません。なぜなら、この恵みこそが、神が人間に与えた、救いの終着点であり、聖書がすべての人々に訴えているメッセージだからです。

「見よ、すべての民に与えられる大きな喜びをあなたがたに伝える。今日ダビデの町にあなたがたのために救い主がお生れになった。この方こそ、主なるキリストである。」と世界で初めのクリスマスに天使が伝えました。このメッセージを今年も伝えていきたいと強く願っています。